

(様式2)

令和6年度 県立高校指定校事業（令和4年度指定）単年度計画書

学 校 名	横浜氷取沢高等学校 (全・定・通)	校 長 名	坪内 幸子
指 定 名	グローバル教育研究推進校	年 度	令和6年度
研究主題	本校のグラデュエーション・ポリシーである「グローバル人材に求められる資質・能力の育成」に向けて、英語によるコミュニケーション能力の向上と国際理解教育を推進するとともに、すべての教科において、それぞれの教科特性を踏まえ、教科横断的に取り組む指導と評価の研究		
本年度の研究内容	<p>(1) 本年度の目標</p> <p>育成すべき「グローバル人材に求められる資質・能力」について全職員で共通認識をもち、「研究主題」「3年間の目標と研究内容」等の共通理解をもつ。</p> <p>1 全教科における教科横断的な取組</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度の校内授業研究テーマを設定し、研究テーマを踏まえた授業改善に取り組む。 <p>2 英語教育における取組</p> <ul style="list-style-type: none">・4技能5領域における各領域別の効果的な言語活動を研究し授業改善を行う。・全生徒が参加する校内スピーチコンテスト、プレゼンテーションコンテストを実施し、英語力のアウトプット力を向上させるだけでなく、より英語に興味を持つような指導を行う。 <p>3 国際理解教育の取組</p> <ul style="list-style-type: none">・「総合的な探究の時間」における系統的な指導計画について課題の整理を行う。・姉妹校等の交流については、交流校との意思疎通を充分に行った上で、直接的交流を実施する。また、直接交流が実施できない場合は、オンラインの交流を実施する。・海外修学旅行を実施し、その中で、異文化交流と理解、現地の人々の交流及び日本文化のルーツを学習する。 <p>4 外部機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none">・グローバル教育に係る講演会を実施する。・近隣大学や地域等との連携や留学生との交流を実施する。 <p>(2) 目標実現のための具体的な手立て</p> <p>1 全教科における教科横断的な取組</p> <ul style="list-style-type: none">・令和6年度の校内授業研究テーマを「他者とのやりとりを通じて、多様な価値観を尊重し、自ら問いを見つけ、問題解決できる力を育む指導と評価の研究」とし、研究テーマを踏まえ、全教科で授業改善と公開授業研究を行う。 <p>2 英語教育における取組</p> <ul style="list-style-type: none">・4技能5領域における各領域別の言語活動について教科で情報共有を行い、実践する。・校内スピーチコンテスト、プレゼンテーションコンテストについては、11月に実施する（予定）。コンテストに向けて、英語の授業の中で計画的かつ効果的な指導を行う。 <p>3 国際理解教育の取組</p> <ul style="list-style-type: none">・各学年の「総合的な探究の時間」担当者が、これまでの指導計画の課題を共有し、課題解決に向けた取組を行う。・姉妹校等の交流については、韓国・オーストラリア・ニュージーランド・フィリピンの高校との直接交流やオンライン交流を行う。・ICTを活用した学習コンテンツや英語学習アプリを取り入れた英語教育の実践研究を行う。 <p>4 外部機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none">・グローバル教育に係る講演会において外部人材を積極的に活用する。・大学等との交流においては海外留学生との交流を行う。 <p>5 成果の普及と啓発</p> <ul style="list-style-type: none">・令和6年度までの取組結果を本校HPに掲載し、外部発信を行う。		

(3) 成果の検証方法及び取組指標

◆検証方法

- 1 「校内授業研究テーマ」に基づき、全教科でそれぞれの教科特性を踏まえた指導と評価の研究を行うことができたか。
- 2 「魅力と特色づくりアンケート」のうち、「主体的な学習活動を通じて、思考力・判断力・表現等を高めることができたと思う高校生の割合」（「満足している」と「どちらかと言えば満足している」の合計）の割合の増加。
- 3 「生徒による授業評価」のうち、次の質問項目において、肯定的な回答の割合がすべての教科で向上したか。
 - ・「単元（内容のまとまり）の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。」
 - ・「他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた。」
- 4 ・CEFR の A 2 レベル以上相当を達成する生徒の割合の増加。
 - ・実用英語技能検定の受検者数や合格者数の増加。

◆検証結果

◆取組指標

授業評価アンケート

単元（内容のまとまり）の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。

回答	令和4年度 (実績)	令和5年度 (実績)	令和6年度 (目標)
4. かなり当てはまる	42.2%	47.3%	%
3. ほぼ当てはまる	44.9%	41.1%	92.0%
2. あまり当てはまらない	10.2%	8.9%	%
1. ほとんど当てはまらない	2.7%	2.7%	8.0%

他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた。

回答	令和4年度 (実績)	令和5年度 (実績)	令和6年度 (目標)
4. かなり当てはまる	40.3%	46.0%	%
3. ほぼ当てはまる	46.7%	41.6%	92.0%
2. あまり当てはまらない	10.2%	9.8%	%
1. ほとんど当てはまらない	2.8%	2.6%	8.0%

魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケート

質問項目 A-4 :

高校生活において、課題の発見と解決に向けて主体的に考えたり、発表しあうなどの協働的な学習活動を行うことによって、中学生の時よりも思考力・判断力・表現力を高めることができたと思いますか。

回答	令和4年度 (実績)	令和5年度 (実績)	令和6年度 (目標)
4. そう思う	39.3%	40.8%	%
3. どちらかといえばそう思う	45.4%	46.7%	90.0%
2. どちらかといえば満足していない	9.8%	9.2%	%
1. ほとんど当てはまらない	5.5%	3.3%	10.0%

	<p>C E F R-A 2 レベル以上相当を達成する生徒の割合</p> <p>【1、2 学年の生徒全員が G T E C アセスメント版を実施している】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4 年度（実績） 1 学年 58% 2 学年 65% ・令和5 年度（実績） 1 学年 67% 2 学年 52% ・令和6 年度（目標） 1 学年 70% 2 学年 70% <p>実用英語技能検定試験の受検者数や合格者数</p> <p>【令和4 年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準2 級 受検者数 243 人 合格者数 109 人 合格率 45% ・2 級 受検者数 411 人 合格者数 66 人 合格率 16% <p>【令和5 年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準2 級 受検者数 232 人 合格者数 140 人 合格率 63% ・2 級 受検者数 465 人 合格者数 102 人 合格率 22% <p>【令和6 年度目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準2 級 受検者数 230 人 合格者数 140 人 合格率 63% ・2 級 受検者数 450 人 合格者数 112 人 合格率 25%
<p>その他 特記事項</p>	<p>特になし</p>